



対談にご同席された奥様をはじめ、ご家族を交えて記念撮影

株式会社 S&H ファーマー

北海道北見市常呂町字豊川 3 番地 4



代表取締役 佐藤 文彦

機械の導入で農作業の効率化を図り 収益性の高い農業を実現する

東京ドーム 11 個分という広大な畑で、タマネギ、ビート、長芋などを栽培している『S&H ファーマー』。同社を牽引する佐藤社長は、3代にわたって受け継いできた農業の技術を活かしながら、最新の農業機械も導入し、農作業の省力化を図っている。本日は、女優の島田陽子さんが同社を訪問。社長のこれまでの歩みや、今後の目標などについてお話を伺った。

——まずは佐藤社長のこれまでの歩みからお聞かせ下さい。

祖父がこの地で農業を始め、私で3代目。祖父と父が働いている姿を見て成長してきたため、私も自然と農業の道へ進もうと、高校卒業後は農業系の短大に進学しました。そうして学業修了後、家業に入ったのです。当時、私はまだ若く、父とは親子故によく衝突していましたね(笑)。とはいえ、私が32歳の時に父は家督を譲ってくれ、全てを任せてくれました。父は今も現役で、農作業を手伝ってくれているんですよ。

——お父様とぶつかりながらも、力を合わせて農業を行ってこられたんですね。お父様も現役とのことですが、こちらは全て社長のご実家で管理されている畑なのでしょうか。

いいえ。妻の実家も農業を営んでいるのですが、妻は三姉妹で後継者がいないんです。ですから、共同で仕事をするために農地を合わせて法人化し、『S&H ファーマー』を設立しました。社名の「S」は佐藤、「H」は妻の旧姓である堀口か

ら取ったんですよ。規模としては54ヘクタール、東京ドーム約11個分になりますね。

——とても広大ですね！ それほどの畑を何名の方で管理されているのですか。

普段は妻と私、学生アルバイトに加えて父、義父にも手伝ってもらい、繁忙期にはスタッフを増やして対応しています。しかし農業は自然相手の仕事ですから、台風などの被害もあって大変ですね。当社ではタマネギをメインにビート、長芋などを栽培しています。あまり知られていませんが、タマネギはなかなか手間がかかる野菜なんです。また、設備投資も積極的に行っており、当社ではドイツ製の大きなトラクターを使って農作業を行っています。

——機械も導入されているんですね。その理由を伺っても？

機械がないと効率的に仕事ができないんですよ。衛星を使ってトラクターの位置を制御・操作することで、手動よりも高精度に動かすことができます。ドローンを使うこともあるんですよ。

——スマート農業を実現されていますね。農業のやりがいは何でしょう。

同じ野菜を作るのでも、栽培方法は農家によってそれぞれ異なり、独自のカラーがあるのが農業の面白いところ。また、やり方によって収益が変わってくるのもやりがいですね。だから効率的に安心・安全で美味しい野菜を作って、収益を上げることができると嬉しいです。

——とてもイキイキとしておられますよ。お話は尽きませんが、最後に今後の展望をお聞かせ下さい。

家業を継いでくれるという長男のためにも、しっかりと地盤を固めていきたいですね。そうしていずれは収穫した農作物の加工も当社で行いたい。『JA』だけに頼らず、独自の販売ルートを広げることが目標です。そのためにも売上を上げ、財務基盤を強化していきたいですね。

(取材／2017年3月)



ゲスト 島田 陽子

「機械導入で農作業の省力化を図っておられる佐藤社長。新しいことに果敢に挑戦されるチャレンジ精神と、先を見据える冷静さで、今後も同社を牽引して行って下さいね」